

夢のある仕事？

森 均

産業用半導体メーカーに勤めて2年目のこと、ある技術系の中堅社員が若手社員達に呼びかけて、朝7時30分～8時迄の30分間に早朝勉強会を催すことになりました。目的は新しい技術を学ぶため。最新の文献を輪読するのですが、若手社員達は毎日朝8時20分～夜10時まで働いているので、参加者は7人が6人に、6人が5人ととだんだん減っていき、それにつれて輪読の順番も早まりますので、参加者はついにぼててしまっ長続きしませんでした。まさしく長時間勤務のせいです。毎日12時間労働が当たり前になると、自分自身を見失いかねません。”仕事の虫”と言われることもあります。そうさせられてしまう感覚です。そして”最後は体力勝負”となります。

さて、会社の将来を案じ、技術系の若手社員を鍛えようと早朝勉強会を始めた中堅社員。私は退職するときにそっと挨拶に行きました。「どこに会社に移るの？」と尋ねられて「教員になります。」と答えたら「なんと”夢のある仕事”に！」と祝福されました。夢のある仕事？・・・のちに、新米指導主事とし勤務していた頃のことですが、知り合いの校長先生が大阪府教育センターに異動され、落ち着いた頃にお話しする機会がありました。思い切って「どうして校長職から教員研修中心の教育センターに異動されたのですか？」とお尋ねしました。すると「校長職はもっと”夢のある仕事”だと思っていた・・・。」と寂しそうに話されました。

”夢のある仕事”・・・、今までにこのフレーズを聞いたのはこの2回だけでした。”夢のある仕事”・・・、脳裏に焼き付いて消えなかった”夢のある仕事”とは？・・・。今になって気づくのです。「それは人材育成だったかな？」と・・・。

対象は、教員採用試験合格をめざす講師の方であったり、頑張りすぎる新規採用教員であったり、教頭をめざす教員であったり、校長をめざす教頭先生であったり・・・。そんな先生方に少しずつ具体的な課題を課していた自分、“生き生きとした自分”を思い出すのです。そして、とうとう忘れていたつもりでも、そんな人たちが活躍している噂を聞けば非常にうれしくなってしまう。

現在、教員養成課程で20代の学生はじめ、外国人学生、科目履修生として学ぶ卒業生の方に教えていますが、そんなことが気づかないまま私のエネルギーになっているのかもしれない。

(もり ひとし 教授/教員養成センター)